



# 雨水市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL : 03-3611-0573 FAX : 03-3611-0574

H.P : <http://www.skywater.jp/>

e-mail : [office@skywater.jp](mailto:office@skywater.jp)

## 雨水市民の会総会にご参集を！

- NPO法人としてのスタートに向けて -

7月8日(土)午後2時30分～ すみだ環境ふれあい館にて

いよいよ雨水市民の会が「特定非営利活動法人・雨水市民の会」に生まれ変わります。これまでの経緯はP2～3に詳細を載せました。今回の総会は、任意団体としての最後の総会になります。万障繰り合わせの上ご参集下さい。

総会では、任意団体としての雨水市民の会の発展的解散とNPO法人への移行について報告します。NPO法人にふさわしく、私たちの活動をさらに進展させていくために、すでに各部会では新年度の取り組みを始めています。それぞれが新たな夢と志を持ち寄り、新しい活動に向けた総会と

し、終了後の打上げ会で決意を新たにしましょう。

なお、同封の出席確認票・委任状を6月28日(水)までに必ず事務局へFAX又はEメールで送付してください。さらなる皆様のご協力、ご支援を願ひ、NPO法人の会員登録申込書も添えましたので、あわせて記入をよろしくお願ひいたします。



### 2006年度雨水市民の会総会

日時：7月8日(土) 午後2時30分

場所：すみだ環境ふれあい館

墨田区文花1-32-9 (電話03-3611-6355)

交通：東武亀戸線「小村井駅」徒歩10分

JR総武線「亀戸駅」徒歩25分

#### スケジュール

- ・午後2時30分～  
バングラデシュ・ネパール雨水国際協力支援活動報告
- ・午後3時～ 総会議題
  - 2005年度事業報告・決算報告
  - 現雨水市民の会の発展的解散とNPO法人雨水市民の会への移行
  - その他
- ・終了後 打上げ会(無料)

### 目次

- P2 NPO法人化に向けたこれまでの経緯
- P4 スカイウォーター・プロジェクト報告
- ・バングラデシュで見えてきた課題
- ・ネパールで地下水ヒ素汚染の先行調査
- P5 雨水公開セミナー報告
  - ・第2回「絵本から広がる雨の世界」
  - ・雨の絵本を読むコーナー
- P6 第3回「雨水を飲み水にバングラデシュでの取り組み」
  - ・第4回「お天気博士が語る雨百景」
- P7 第5回「印旛沼の再生計画と雨水浸透」
- P8 風コーナー
  - ・リングタンのモデルプラント完成間近
  - ・親しんでもらえる雨の絵本ひろばを
  - ・菊地界善さんが出版
- P9 神谷博さんらがDIN規格を翻訳
- ・ふれあい館を拠点に雨水探検隊GO!
- ・ソウルにおける分散型雨水管理システム
- P10・ピスワス氏、「水のノーベル賞」受賞
- ・国際雨水資源化学会インインドに参加
- ・東京国際会議の報告書できる
- ・イオン環境財団助成金決定

## NPO法人化に向けたこれまでの経緯

### NPO法人設立総会の開催

2005年6月10日の総会においてNPO法人化が議決されたことを受け、幹事会では約半年をかけて定款、予算、組織体制等について議論を重ね成案をまとめ、NPO法の手続きに従い、幹事21名全員が理事となり、2月20日に設立総会を開きました。そこで設立の理由として以下の3点を確認しました。

#### 第1点：持続可能な活動のために

子供から大人までの雨に関する普及・啓発、雨の文芸など雨に関する調査・研究、雨に関する情報発信と出版、雨水の活用に関する技術開発及び設計と施工のための技術者養成、雨水の活用に関する国際協力・支援などの事業を持続可能な取り組みにしていくために、社会的に認知された組織として体制を整備していく必要がある。

#### 第2点：行政及び事業者のパートナーとしてイニシアチブを発揮していくために

雨水をためて活かす社会を実現していくためには、市民の立場から法や制度の整備を行政に働きかけたり、安くて良質な機器の開発を事業者に要望したりするなど、行政及び事業者と対等のパートナーとして市民的イニシアチブを積極的に発揮していかなければならない。そのために、社会的に信頼ある組織である必要がある。

#### 第3点：行政や市民団体の事業を受託するために

自治体や市民団体から雨に関する普及・啓発事業などを受託したり、雨水の活用に関する国際協力・支援事業に関して日本政府や国際関係機関と契約したりするためには、NPO法人化が不可欠である。このことは、雨水市民の会の安定的な経営基盤作りにもつながる。



### NPO法人化申請

NPO法人化の認証申請には、設立趣意書や定款が必要です。次のような書類を調べました。

#### (1) 設立趣意書

理事会で確認した左記3点を基に作成しました。

#### (2) 定款

定款では、活動目的、NPOの種類及び事業、組織（社員及び役員）などを明確にしなければなりません。

#### 目的

これまでの活動実績を踏まえ、会の目的を次のように定義しました。

「広く一般市民を対象として、子供から大人までの雨に関する普及・啓発、雨の文芸など雨に関する調査・研究、雨水の活用技術の開発やその設計と施工のための技術者養成、雨に関する情報発信や出版及び雨水の活用による国際貢献事業を行うことで地域環境の保全を図るとともに、雨水をためて活かす取り組みを地域から世界へ広げることによって21世紀の水危機を打開し、もって、平和で持続可能な社会の実現に寄与することを目的とする。」

#### NPO活動の種類

法律が挙げる17の活動の種類の中から雨水市民の会として該当する活動の種類を次のとおりとしました。

- (ア) 社会教育の推進を図る活動
- (イ) まちづくりの推進を図る活動
- (ウ) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (エ) 環境の保全を図る活動
- (オ) 災害救援活動
- (カ) 国際協力の活動
- (キ) 子どもの健全育成を図る活動
- (ク) 科学技術の振興を図る活動
- (ケ) 以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

上記の活動にかかわる事業として、これまで取り組んできた事業に加え、調査研究など今後想定される事業も包含できるように配慮し、次のとおりとしました。

- (ア) 雨に関する普及・啓発事業
- (イ) 雨に関する調査・研究事業
- (ウ) 雨に関する情報発信・出版事業
- (エ) 雨水の活用に関する技術開発及び技術者育成事業
- (オ) 雨水の活用による国際協力・支援事業
- (カ) 雨水の活用による災害救援事業
- (キ) その他この法人の目的達成のために必要な事業

理事・監事の選出

理事の名簿には、理事長（会長に相当する）と副理事長及び監事（会計の監査）を明記しなければなりません。理事会では、理事長として現在の副会長である徳永暢男氏を、副理事長として現在の副会長である佐原滋元氏、山本耕平氏を、監事として菊地界善氏と田中清子氏を選出しました。

会員の構成

NPO法人化を取得するに当たり、さまざまな事例を参考にしながら次の3種類としました。

- (ア) 正会員：この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (イ) 賛助会員：この法人の目的に賛同して、活動及び資金の協力を行う個人及び団体
- (ウ) 学生会員：この法人の目的に賛同して入会した大学生

正会員は総会で議決権を持ちます。賛助会員及び学生会員は総会に参加できますが、議決権はありません。

会費

会員一人ひとりが会の経営を積極的に支えていくという観点から、年会費を以下のように決めました。

- (ア) 正会員：個人；6,000円、団体；30,000円
- (イ) 賛助会員：一口3,000円
- (ウ) 学生会員：3,000円

なお、初年度の入会金は0円とし、翌年度からの入会金は正会員のみ2,000円を徴収することとしました。

NPO法人化に関する申請状況

3月29日、東京都にNPO法人化取得の申請手続きをしました。申請書は受理され、都はNPO法に基づき情報公開として5月8日に公告し、現在、書類の縦覧及び閲覧が行われています。大きな変更の指示がなければ、7月中に認証が下りる予定です。なおNPO法人化申請にあたっては、墨田区のNPO担当の上紙真実さん、東京都行政書士会墨田支部副支部長の山際哲也さんにはお世話になりました。心からお礼を申し上げます。

認証が下りた後、登記の手続きに入ります。少なくとも、今秋ごろまでには正式に“NPO法人雨水市民の会”が発足する予定です。

正会員として主体的に経営に参加したり、賛助会員として資金的援助をするなど、皆様のお知恵とお力をお寄せください。

NPO法人とはどんなもの？

市民が行う自由な社会貢献活動を促進するため「特定非営利活動促進法」により国又は都道府県の認証を受け、特定非営利活動法人（NPO法人）として法人格を持つことができます。契約を締結する当事者になることができる、不動産等の登記ができるなど、法律上の権利義務の責任を負うこととなります。NPO法人は、社員を構成メンバーとした組織で、最高意思決定機関として社員総会と業務を行うに必要な機関としての理事及び監事をおく組織です。

NPO法人取得にいたる  
おおよその流れ

9月頃	8～9月	7月下旬	7/8	5/8	3/29	06/2/20	05/6/10
開始	NPO法人として活動	登記の手続き	認証	「NPO法人雨水市民の会」として東京都が	消・会員登録開始	NPO法人へ発展的解消	雨水市民の会総会で
				公告・縦覧開始	申請	東京都へNPO法人	NPO法人を立ち上げ
							NPO法人化決定
							2005年度総会で

これから

これまで

## スカイウォーター・プロジェクト報告

### バングラデシュで見えてきた課題

1月4～12日、徳永副会長、村瀬事務局長、松本正毅さんの3名が、バングラデシュのNGOと共同で実施している雨水タンク普及活動の調査を行いました。NGO自らが設立したものも含め、すでに300基を超えるタンクの設置が完了しています。普及に伴い、日本とは異なったさまざまな課題が見え始めてきました。

#### 乾季の飲み水をまかなえるリングタンクを

現在雨水タンクは、直径が約120cm、高さ30cmのリング状のコンクリートを、軒下に入る高さまで6段積み重ねて作っています。その容量は、約2トンです。しかし、これだと6～7ヶ月続く乾季に一家4～5人が飲むには十分ではないことが分かりました。そのため容量は3.6トン以上のものが必要となります。

また、道路が狭い地域では自動車が使えないことも問題です。力車や荷車で運ぶにはどうしたらよいかなどを検討していかなければなりません。

### ネパールで地下水ヒ素汚染の先行調査

ネパールがバングラデシュと同様の地下水ヒ素汚染問題に直面していることをJICAから聞き、2月25日～3月4日に徳永副会長、村瀬事務局長、今関久和幹事の3名が先行調査のために現地へ出かけてきました。

#### ヒ素汚染の実態

問題となっている地域はインドに接する平野部で、浅井戸のヒ素汚染が分かっており、利用者も多いため大きな問題となっています。一方、カトマンズがある内陸部では、浅井戸でなく深井戸からヒ素が出てきており、上水道や大きな団地の水道などに影響が出ています。この事実は、ネパールのNPOであるENPHOが自分たちの検査機関で調査して得たものです。

すでにヒ素汚染対策として雨水利用の取り組みも始まっており、その現場を見ることができました。

#### すばらしいエコトイレに感激

首都カトマンズでさえも、水道は1日おきに1時間程度しか給水がされません。排水はそのまま流れ河川は汚れ放題、地下水にも深刻な影響が出

#### タンクにためた水質の把握

タンクが設置され飲用されるようになってくると水質検査がますます重要になってきます。しかし現場の水質データがほとんどありません。維持管理方法の確立を図るためにも水質検査は欠かせません。簡易検査でもいいので実施してみることが重要です。

#### トイレと安全な飲み水の両方がいる

現地では、トイレや排水も大きな問題です。無処理の排水は地下水やため池の水を汚染し、雨季には洪水で汚染が広範囲に広がり、感染症の発生に結びつくからです。安全な飲み水の確保とともにコンクリートリングを利用したトイレとセットで「個別上下水道」を普及する必要があります。

#### 雨水タンク利用者の声を聴く

今後、乾季の間まかなえるだけの容量があるリングタンクの規格化と建設に関するマニュアル化を図っていくために、昨年リングタンクを設置した住民に対するアンケート調査を実施したいと考えています。(今関久和)



人々が集うカトマンズの共同水汲み場。深さ数mの素掘りの地下水路が張り巡らされ、まちのあちこちにあり。しかしその水は下水で汚染されている。

ています。ここにも「個別上下水道」が必要だと感じました。自宅で雨水と排水を循環利用している家があるというので、見学してきました。オーナーは、国連ハビタットネパール事務所長のロシャン氏です。トイレは水を使わないエコトイレで、し尿を肥料として家庭菜園などに有効利用していました。

今回の先行調査に基づき、今後ENPHOと協働して安全な飲み水の確保のために、リングタンクの普及を図るとともに、新たにエコトイレの開発を行っていききたいと企画しています。(今関久和)



## 連続講座 雨のおいしい話 (第2~4回) 報告

(第1回は昨年11月2日発行のあまみず第41号をご覧ください。)

## 第2回 「絵本から広がる雨の世界」

2005年10月29日(土) 講師: 平林英二(展示企画コーディネーター)

平林英二さんは、すみだ環境ふれあい館内の「雨の絵本ひろば」を企画していただいた方です。ご本人の講演のほか、絵本ひろばのメンバーの南昌子さんが受講者に絵本の読み聞かせをしました。

## 絵本の魅力

ポピュラーで優れている絵本はたくさんある。例えば「ピーターラビットのおはなし」(作: ピアトリクス・ポター、訳: いしいももこ、福音館書店)は、イギリスで100年以上も前(1902年)に出た本である。それが新しい絵本と同等に売られて読まれているようだ。「よあけ」(作: ユリー・シュルヴィッツ、訳: 瀬田貞二、福音館書店)は、子どもとおじいさんが夜明け前に湖へボートで繰り出すが、突然、山と湖が緑になり、登場人物も読者もびっくり。自然のすばらしさを感じられる、世代を超えて楽しめる本である。

## おすすめの絵本

「雨の絵本ひろば」は、質屋21協同組合の寄付金ですみだ環境ふれあい館の空き教室を改造して、2005年8月の雨水東京国際会議にあわせオープンした。絵本を購入したり、広く会員の皆さんから寄付、貸与していただいた。まだまだ充実しているとは言えないが、今後身近な地域の人たちとともに末永い活動ができればと願っている。雨の絵本ひろばの絵本の一部を紹介する。

「雨、あめ」(作: ピーター・スピアー、評論社)

は子どもが雨の中に出かけて、いろいろなものに出会って愉しむ雰囲気がよく描かれている。文章がないので、思い思いに楽しめるのではないだろうか。「おじさんのかさ」(作: 佐野洋子、講談社)は、傘を大切にする余り雨の日も傘をささないおじさんが、ユーモラスに描かれている。「さんねんごい」(作: 菊池日出夫、福音館書店)は、生命豊かな場所で遊んでいた経験が描かれている。こんな所が少なくなってきた現在、伝承していかなければいけない大事なことである。

文と絵のハーモニーが感性を磨く

環境問題を扱うものには、大人の思いを押し付けるような絵本が少なくない。キャラクターがごみ問題の話をしたり、言葉だけで「地球は一つの星」などと言っても、物事の本質に迫るわけではなく単に言葉尻だけの表現となり、子どもの心の中に入っていないのではないか。

絵本は、人間が生まれて最初に出会う総合芸術だと思う。育ち盛りの時期に感性や知性を豊かにすることは、大事なことである。人と人、親子の関係、自然と向き合うことなど、現実の世界に向き合う前に、何が大切かを教えてくれる有効なツールである。また、絵本は子どものためと限定せず、大人にも見てほしいと思う。優れた絵本は、文章と絵とそのミックスの具合が最高のハーモニーでできており、十分に愉しめる。(高橋朝子)

## 雨の絵本ひろばから

「ふたつの島」(作: J. シュタイナー &amp; J. ミュラー、ほるぷ出版)



むかし、ふたつの島があった。大きい島には、金持ちと貧乏人、主人と奴隷がいた。彼らの舟の立派なこと! 彼らは働き者で、市場にはたくさんの品物が溢れ、貝殻のお金も使っていた。小さい島には、主人も奴隷もいなかった。皆は何をするにも一緒だったから、金持ちも貧乏人もいなかった。みんな、歌ったり踊ったり、生きることを楽しんでた。ある日大きい島の王は、大きい島をもっと大きく、もっと豊かにしようと思い決めた。そして...

シュタイナーとミュラーのコンビが贈る大型絵本。美しい精緻な絵と平易な文章で、人間の欲望が引き起こす自然破壊の恐ろしさを、読むものに鋭く突きつけてきます。(南昌子)

### 第3回 「雨水を飲み水に - バングラデシュでの取り組み」



2005年11月5日(土) 講師：徳永暢男(当会副会長)

バングラデシュのほぼ全土に及ぶ井戸水のヒ素汚染の実態を紹介するビデオを見た後、当会が6年前から進めるスカイウォーター・プロジェクトの経緯について話していただきました。

バングラデシュで雨水利用を広める運動展開

ダッカ市街を数キロ離れると、きれいな雨水はトタン屋根から簡単に手に入る。だが、雨水利用を普及させる道筋はなかなか立たなかった。最初は政府関係者に我々の活動を紹介したり、民間でNPO活動をしている獣医師と知り合って進めようとしたが、目指すものの違いがあり途中で終わってしまった。

「NGO FORUM」というNGOの紹介でコミラ村の取り組みを見学した。7、8軒に1箇所の水道として、雨水とヒ素汚染のない浅井戸の水を混合して供給していた。その出会いから実質的なプロジェクトが始まった。

リングタンクと竹樋

雨を集めるための樋を塩ビ製にすると、高価だ。バングラデシュでは、竹で工事現場の足場が組まれていることに気づき、竹樋を次の機会に紹介した。長く持たなくても、竹はたくさんあるのでまた作ればよい。雨季になって初期雨水カットの仕

方を教えたところ、女性たちは「雨水はこんなにもうまいものか」と手をあわせて感謝してくれた。

雨季は竹樋で集水すればよいが、乾季はどうするか。路上のトイレに目が留まった。地中に底をつけずにコンクリートリングを重ね



我が家に雨水タンクができて埋め、跨ぐ蓋をつけた

簡単なもの。リングを地上に重ねコーキングして、蓋とコックをつければ雨水タンクになる。”PR-JAPAN”のロゴマーク入りの1.5~3tタンクが1家庭に1基設置されるようになった。事業を持続可能なものとするために、低利のローンで資金をまわすマイクロクレジット方式を導入した。自分のタンクなので愛着が生まれ、蛇口に鍵をつけたり台所まで水を引いたり工夫もされている。地球環境基金の資金を利用して地元NGOとの協働で68基取り付けた。若い人たちがもっと良いタンクを開発してくれたら嬉しい。(柴 早苗)

### 第4回 「お天気博士が語る雨百景」

2005年11月19日(土) 講師：原田龍彦(気象予報士・雨の環境学習分科会)

普段、小学校などで講演している気象の話を中心に、気象衛星など迫力ある映像を交えながら、地球温暖化問題や昨年の雨水東京国際会議・環境学習分科会などの多岐にわたる内容を講演されました。

2005年は、ハリケーンのカトリーナが30年ぶりにニューオーリンズに上陸し、日本でもゆっくり



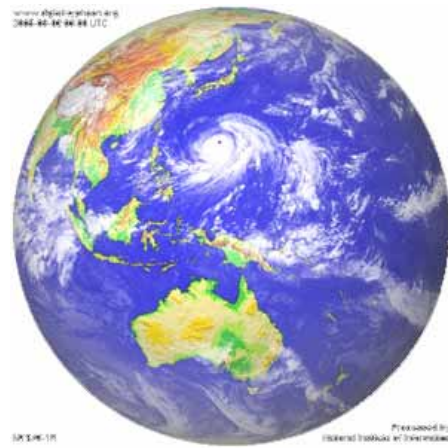
勢力を保った台風14号が大変な被害をもたらした。14号本体の雲は九州の3倍位で雨の範囲も相当広がった(P7写真参照)。台風は、毎年30個程度発生し、日本への上陸は平均して3個くらいだが、2004年は10個も上陸した。

気象衛星の雲分布や風の流れなどを見ると、空はつながっていると実感できる。地球をリングとするとその皮よりも薄い空気の間層の中で、天気の変わる範囲は10kmまでである。空気が上昇しているところに雲ができ、空気が上昇と下降を半分ずつ交互に繰り返しているのが地球の姿である。地球の自転によって、北半球では右に曲がる「コリオリの力」が働く。赤道付近で温められ上昇した空気は、長い距離を一度には運べず3段階で寒い極地方に運ばれている。日本の位置する中緯度帯では西から東に偏西風が吹いており、それらの影

響で台風は右に上ってくるし、明日の天気も西の空を見るとわかる。

大陸の空気は、暖まりやすく冷めやすい。海はその逆に暖まりにくく冷めにくい。冬は大陸から乾燥して冷え込んだ空気が日本付近まで覆い、日本海の湿気を吸って日本海側に雪を降らす。夏は太平洋高気圧の暑くて湿った空気の影響を受ける。梅雨や秋雨の時期には冷たい空気と暖かい空気が拮抗し、その境目に前線が生じて雨が降る。日本ほど、1年の間の温度幅が広く、多様な気候のところは余りない。

「気象学は、まだ分からないところがある学問で、外れることがあってもとりあえず予報は出す」



2005年9月2日の台風14号

の言葉が印象に残り、気象は奥が深くて難しいと思いました。  
(柴 早苗)

### あまみず公開セミナー 第5回「印旛沼の再生計画と雨水浸透」

2006年3月25日(土) 講師：宮澤博(NPO法人 雨水流出抑制技術協会理事長)

今、千葉県の水がめを再生させる印旛沼流域水循環健全化会議に集う人々の意気込みが熱い。そのメンバーである宮澤博さんのお話を伺いました。

#### 印旛沼会議の成り立ちと現在

上水だけでなく、農業用水、工業用水の取水源でもある印旛沼は千葉県にとってなくてはならない存在だ。しかし流れ込む河川の上流域の宅地開発が急速に進んだために水質が悪化した。上水の取水源としては全国でワーストワンとなっている。水系の最下流にある佐倉市では流域の保水力が落ちたために都市型洪水が起きている。沼の植生や生き物の種類も減ってしまった。

こうした状況を改善しようと、行政、住民、NPO、企業から子どもたちまで流域の人々が集まり会議を重ねている。2010年を目標にした緊急行動計画は、雨水の浸透、家庭雑排水の汚れの削減、エコ農業の推進、湧水と里山の保全・再生、水害から街を守る、といった5つの重点対策群からなっている。2030年を目標にした長期計画もある。

この行動計画の基本姿勢は「みためし計画」に凝縮されている。「見て試す」に由来するように、最初の計画に固執せず、修正しながらより良い方向へ進める柔軟な発想である。

#### 再生計画を支える環境技術

雨水活用や雨水の地下浸透の技術開発に携わってきた宮澤さんの実践例として、まず県道での分離浸透による雨水対策がある。通水ダクト式浸透

マスを用い、初期雨水が持ち込んでくる浮遊物質や油分を分離したあとの水を浸透・流下させる。また学校グラウンドでのガラスカレットを使ったAG浸透工法がある(写真)。分別収集された色ガラス(産廃)を一定の粒形に砕いて土と混ぜ合わせることによって高い浸透能力を発揮する。宅地開発での貯留浸透工法もある。成田市の現場では、各戸貯留、間隙貯留、浸透の3つを組み合わせることで3000トンの雨水流出抑制効果を実現した。

県はこうした最先端の環境技術を後押ししている。みためし行動・企業系では環境新技術を開発するための研究会が開かれている。また、調整池か貯留浸透のどちらかを選択できるように宅地開発指導要綱を改訂した。調整池をつくらずに、貯留し雨水活用し土壌に戻す総合的な手法を選択すれば自然のサイクルにより近づくことになる。

「雨水は土壌がちゃんと処理してくれます。人工的な排水方法をなるべく使わずに土を活用することが大事なんです」という宮澤さんの言葉が心に残りました。  
(長尾愛一郎)



ガラスカレット入りの土を入れて浸透能力がアップ



## リングタンクのモデルプラント完成間近

徳永暢男さんが、プロジェクトメンバーとともに試作していた改良型リングタンクが、すみだ環境ふれあい館に完成します。コンクリートリングは全て手作業で、内径1.6m、厚さ5cm、高さ30cmで1段の重さは約180kgとなり、4人がかりで積み上げました。6段積み上げタンクの容量は3.6トンです。仕事の合間をぬって毎週土曜日にメンバーが集まり、制作しました。

この制作をとおして得られた経験や知識を基に、バングラデシュで現地の事情に合わせた方法やアドバイスがより適切にできるようになるでしょう。

私は1日だけのお手伝いでしたが、「重機があったらな〜。」というため息まじりの一言に心から納得しました。徳永さん、前田さん、荒井さん、お手伝いいただいた皆さん、ご苦労様でした。

(今関久和)



上：完成間近のタンク

下：型も手づくり。コンクリートをこねて1つずつ作った

## 親しんでもらえる雨の絵本ひろばを

すみだ環境ふれあい館内にある「雨の絵本ひろば」では、月に1度のペースで読み聞かせの会を開いています。手作りコーナーも取り入れ近所の人や子どもたちに来てもらい、まずは環境ふれあい館や雨の絵本ひろばに親しんでもらおうと思っています。少しずつですが、訪ねてくれる子どもや親子連れが広がってきているように思います。

「紙芝居も作りたいし...」「やっぱり、読み聞かせの技術を磨かなきゃあ」などとスタッフの夢は膨らみます。9月30日、10月1日に「すみだ環境ふれあい館まつり」が開催されるので、少しは力をつけて挑みたいところです。子どもや絵本大好きな方、ぜひぜひ、スタッフとして参加してください。そして今年は、もう少し蔵書を充実させたいと思っています。

今後の読み聞かせ会は以下のとおりです。

6月24日(土) シャボン玉で遊ぼう

7月23日(日) 身近な鳥を見てみよう

8月5日(土) 打ち水で涼しい夏(仮題)

いずれも午後1時30分から (上林裕子)



4月1日の読み聞かせ会の様子。

メンバーの原田さんと子どもたち

## 菊地界善さんが出版 「暮らしと住まいのデータ・メモ」

会員の菊地界善さんが保健所の環境衛生監視員としてシックハウスや水の衛生などに関わった経験を活かし、住まいの衛生を中心に100の項目でコンパクトに分かりやすくまとめたものです。

(PHNブックレット2、萌文社、1470円)



## 神谷博さんがDIN規格を翻訳

「あまみず第41号」で紹介した「DIN1989雨水利用装置」(ドイツ工業規格で定める雨水規格)が、神谷博さんたちによって翻訳されました。日本における、建築での雨水利用の普及を図ろうと法政大学大学院エコ地域デザイン研究所「エコロジー



プロジェクト」の成果の一部として実現しました。なお、この資料は非売品ですが、ご希望の方には多数でなければ郵送料負担でお分けできますとのこと。詳しくは、水系デザイン研究室、神谷博さんまで、お願いいたします。

[ E - メール: suikei@mbd.sphere.ne.jp ]  
(清水英弥)

## ふれあい館を拠点に雨水探検隊GO!

雨水探検隊は、地域の子どもたちとともに雨や水を中心に、自然の中での体験活動、見学、調査、工作などを通して、楽しみながら学んでいる市民の会のグループです。毎年、墨田区内の小学校に参加を呼びかけています。

2006年も、すみだ環境ふれあい館での田植えから活動をはじめます。6月10日(土)午前10時からです。11月の収穫祭まで、基本として土曜日に毎月1~2回の活動を予定しています。主な内容は、ふれあい館のビオトープでの自然観察、川での魚の採集や観察、魚やトンボ、雨の話などの講座、田植え、草取り、収穫、おにぎり作り、などの田んぼ作業を計画しています。

また、7月8日(土)午前は雨水探検隊の授業を企画しています。さらに、9月30日、10月1日の「すみだ環境ふれあい館まつり」では、冒険家、関野吉晴氏の講演や雨水セミナーなどを行う予定です。ぜひ、参加してください。(原田龍彦)



技術レポート

## ソウルにおける 分散型雨水管理システム

韓国は、日本と同様、モンスーン地帯に位置し、昔から洪水と旱魃が繰り返しおこり問題となってきました。近年は、気候変動によって夏に雨が集中する傾向が強くなり、下水道が雨水を処理しきれなくなっています。ソウル大学のハン教授は、その解決策として新しい雨水管理の方法を提唱しています。現在、その成果も現れているところです。

ソウル市では、最近台風や集中豪雨で降雨量の記録を更新する機会が多く、今後さらに洪水の危険性が高まることが想定されます。しかし、これまでの洪水対策は下水道の整備や川を高い堤防で囲うなど、雨水をすばやく排除して流す方法で、それをさらに上回るものを作るには技術的にも財政的にも限界があります。その有効な方法として、ソウル市では2004年12月に分散型雨水管理システムの新しいガイドライ

ンを策定しました。その概要は以下のとおりです。

- (1) 5000㎡以上の新築建築物、3000㎡以上の既存の公共建築物に対し雨水採取システムを設置することを義務付けした。
- (2) 50立方メートル以上のタンクでは水位レベルをモニターしてインターネットで災害防止センターにデータを送付する。
- (3) 建物の所有者に予想降雨量に応じ洪水に備え、雨水タンクのスペースを空けることを指示する。
- (4) この規制に従う所有者には奨励金、従わない所有者には罰則を与える。

このようなシステムは市民の理解と協力なしにはできません。ハン教授は、市民や議員を巻き込み活動を展開しています。

(高橋朝子)

## ビスワス氏、「水のノーベル賞」受賞

第三世界水資源管理センター所長のアシット・ビスワス博士が、2006年の「ストックホルム水賞」を受賞されました。みなさんもお記憶だと思いますが、ビスワス博士には、昨年の雨水東京国際会議において基調講演をしていただきました。

「ストックホルム水賞」は“水のノーベル賞”とも呼ばれています。毎年、世界の水環境に関する傑出した研究や教育、活動を認められた個人や組織にスウェーデンのストックホルム水財団から授与される世界的に権威ある賞です。ビスワス博士の受賞理由として、同賞選考委員会は、人類が直

面している飲み水と衛生の問題に関連して、国連の顧問として水と衛生の改善に大きく貢献したこと、水資源問題に関する国際機関、政府、学会などのネットワーク化に中心的な役割を發揮し、世界の水資源問題解決に貢献されてきたことをあげています。昨年の受賞者である「インド環境・科学センター」といい、今回のビスワス博士といい、雨水活用のよき理解者が受賞したことは誠に嬉しいことです。

改めて、ビスワス博士受賞おめでとうございませう！  
(村瀬 誠)

## 国際雨水資源化学会 in インドに参加

2005年11月12～19日にインドの首都ニューデリーで開催された国際雨水資源化学会に、村瀬事務局長、佐藤清さん、小澤昭一さん、中臣昌広が参加しました。この会議で村瀬事務局長は副会長に再選されました。また、展示ブースで雨水市民の会の活動を紹介しました。

会議終了後、チェンナイの雨水センター所長のセカール氏を訪ね、館内や他の雨水利用の現場を案内していただきました。

チェンナイ市内では、雨を地下に涵養(かんよう)させるための浸透井戸が集合住宅や教会などに設けられています。地下水の過剰使用で低下した地下水位をとりもどす目的です。こうして涵養させてから、地下水を利用しています。

車で南へ1時間行った村では、約500年前からため池を築き、そこにためた雨水を稲作の農業用水に利用したり生活用水に使っています。断水が日常茶飯事で、水道に依存することができないインドの生活は、一見して不便に見えます。しかし、雨水や地下水を自前の水資源として有効に活用している姿は、水源自立という点で見習うことが多いと感じました。  
(中臣昌広)

セカールさんとチェンナイの雨水センターにて



## 雨水東京国際会議の報告書できる

ビスワス博士が雨水利用の過去、現在そして未来について基調講演された内容も載っている雨水東京国際会議の報告書が完成しました。報告書は総会当日に配布いたします。



また、同会議の「雨を捨てない保水型都市へ」分科会の報告書もあります。韓国、ドイツの事例をまじえ、都市での浸透、貯留、利用を社会の仕組みとするための議論をしました。(実費500円で総会にてお分けします)

## 2005年度イオン環境財団助成金決定！

2005年8月、イオン環境財団に申請した雨水の活用による国際協力事業に150万円の助成がつけました。このたび助成が決定しプロジェクトは、「ヒ素汚染地下水による人体への健康被害低減とその自然生態影響防止のためのローコスト雨水タンクの開発と持続可能な事業化の推進」です。事業期間は2006年4月から2007年3月までです。いただいた助成金は、旅費やタンクの制作費に充てられます。イオン財団に感謝！

編集後記 新緑が色濃くなってきて、紫陽花が咲き出し、梅雨の舞台道具がそろってきた。今回は雨水市民の会がNPO化する大切な総会の知らせをお伝えするため、記事の内容を理事会でも議論しました。